

解答時間は わずか5分。

講義中に出された下記の課題に対し、
230人の東工大生が真剣に考えて提出したなかから、
個性ゆたかな7つの答案を選んでお届けします。

課題

東国のはんこ大名は行政システム充
実でバシバシ命令の強い統治、
西国のサイン大名は表彰状出しまくり
で家臣の心をつなぎとめるゆるやかな統治。

同じ戦国時代なのにどうしてこんな
違いが生ずることとなったのか、推
理してみてください。

奇説・珍説も可。

そば文化とうどん文化の生まれたわけ

気候？ 地形？
だけじゃない

8段階構想で
展開 T.T.さん

東国 → 冬は雪に閉ざされる → 大名と家臣の交流が弱まる → 情が通じない → 文書出してリーダーにエピソード
→ 文書大量 → 寺も^{おかしな}怪んでサイン書とづらひ → ほんに導入 → さうに文書活用

西国 → 一年通して温暖な気候 → 大名と家臣の交流が盛ん → 仲が良い → 覚めりリーダーらしさをアピール
→ 味方館主の直筆が「イタイ」位方々へ → ほんに導入促進 → 文書がたまに出すくらい

かんにんな
言葉のちがい

M.K.さん

話し方は人間関係を変えると思う。例えば「ごめんねさい」とお母
 子のでも「かみなんば」とお父さんのでは受け取り方（感じ）が全然違う。東のどのお母さんは、
 「き」と言葉がなくて命令も強くなって来る。西のどのお母さんは言葉、強さは
 ほとんどなくて、いつのまにかゆずり人間関係が「ごめんね」で済まされていく。

家臣頼みか
総力戦か

M.O.さん

西は暖かいので食べ物が、土地が豊かなので「国一つ一つの国が」ところで10分の2家臣が少なくて済んでいて、土地が豊かで、国は滅びてしまっている。だから兵に兵を家臣の兵を減らす。家臣は少ない。東は寒く、土地が貧弱。だから、土地を人々を管理している食べ物の4分の1が減り、土地も荒れ果ててしまっている。国がdown。自滅してしまっている。それを防ぐためにシステムを定めておく。遺産を残すために兵に兵を減らす。

いや逆
東国こそ
不信の塊

M.T.さん

東国の大名は主や他国に裏切る傾向が強い。つまり人は信じられないものだと思つた。例へば武田信玄は親と毒放した。今川、北条との同盟も、ついに破れた。状況はこんなから、西国の大名は、人に信じることを信条としていたと思う。毛利氏の三本の矢の教えにあるように、人に協力しあふ。ことごとく太刀打ちになると思つたと考えられる。東国でも比較的、名譽争ひが多い。上杉は、西国の大名のように義と重んじる人であつたため、名譽争ひが多くなつたと思われ。

大名の力
の大きさ
の違いだ

Y.T.さん

東国は貧しくて、武装集団のボスみたいな存在はいっぱい、大名は少なく、圧倒的な力を持つ大名が武力でまとめたので、命令形が統治を行なった。一方、西国は昔から比較的豊かで、規模は小さくとも大名と呼べるくらいのかきもつことができた。大名間の格差が小さいために表彰状をたくさん出してつなを止める政治を行なった。つまり、大昔から日本は西が豊かで東が貧しかったのが原因ではないのかと思う。

はんこは
開拓者精神

N.H.さん

人は二は當時、一種の力の最徴の様な物だ、たのびはなが、たんではないんでしようが、「オレは人なかに、チー
 は人に持つておれ！」という。それが自分の力で他の大男に見せつける事になるが、バリンを出して人の目から見えるようにする。
 サインはアレミアの様な物だが、表面影状にくっつける事で、より一層真心の込め、たアレミアにした。とが。
 系、局な人で、そうなのだが、日本が西側から開拓されてた（人たよね？）事、関係が、て、
 「来人」＝カンガン開拓していく「アゲレツツ」な人たす 「西人」＝定着した「ディエツツ」な人たす、という所が、違いが生まれ、とが。

関西人が
値切るわけ

M.O.さん

この問題は現代でも同様のことが言え、その原因は東西の人の性格の差だと思う。
 関西の人はよく価格と価値のイメージがあるが、それはつまり、値というのは売り手と買い手に
 対してのものであり、その場で変わるものと考えていいのだ。ものごとけ人と人との間で決まり、こころで
 承認する「サイン」が、必要不可欠であつたと思う。東洋についてはその逆であつた。
 そのころは役職と役職の間で決まるのだ。